森林害虫として記録されている ゾウムシ類の種名について

II. クスアナアキゾウとその近似種

森　本　　桂[1]

I 緒　　言

アナアキゾウ属 *Hylobius* のゾウムシはわが国から 21 種記録されていて，河野（1934）によりまとめられたが，クスアナアキゾウとその近似種については記録の整理が誤つているため，加害植物とゾウムシとの関係に混乱が生じている。筆者はこの論文でこれらに関する今までの記録を再整理し，近似種との区別点を記した。

この研究を発表するにあたり，ご指導を賜わつた林業試験場保護部長藍野祐久博士，および九州大学農学部教授安松京三博士に厚く感謝する。

II 今までの記録の整理

クスアナアキゾウ，オリーブアナアキゾウおよびガロアアナアキゾウの 3 種は互いによく似ていて，今までの記録に同定の誤り，または混同がみられる。これらを成虫の記載，付図，加害植物などの記述から再整理を行なつた。

1. *Hylobius orientalis* MOTSCHULSKY　クスアナアキゾウ（シロオビアナアキゾウ）

1866 *Heilipus orientalis* MOTSCHULSKY, Bull. Soc. Nat. Moscou XXXIX : 180（日本から記載）

1873 *Hylobius perforatus* ROELOFS, Ann. Soc. ent. Belg. XVI : 188（♀の記載が本種）

1891 *Aclees hylobioides* DESBROCHERS, Ann. Soc. ent. Belg. XXXV, C. R : ccclii（支那から記載）

1894 *Pagiophloeus hylobioides* FAUST, Stett. ent. Ztg. LX : 359（属を移す）

1915 *Hylobius macilentus*（クスアナアキゾウ）松村，大日本害虫全書後編 p. 222（“沖繩地方に普通なるクスノキの害虫なり，目下東京地方にも産するに至れり”）

1921 *Hylobius macilentus*（クスゾウムシ）日高，林試彙報 5 : 17～28（生態と防除法，加害植物：クス，マツラニツケイ，シロダモ，カゴノキ，タブノキ）

1926 *Heilipus orientalis*（キマダラゾームシ）河野，台湾博物学会会報XVI : 89（朝鮮釈玉寺から記録し，分布として本島と九州をあげている。河野は 1934 年の論文にこの記録を全然引用せず，また“キマダラ”という和名で表現されるような斑紋をこの種が持たないことから，河野の朝鮮からの記録は同定の誤りによるものと推定する）

1932 *Hylobius orientalis* ZUMPT, Kol. Rdsch. 18 : 132（再記載）

（1） 保護部昆虫科昆虫第一研究室員

1932　*Hylobius macilentus*（クスゾウムシ）日高，管内における造林試験および調査概要：141～160（生態，防除法）

1934　*Hylobius orientalis*（シロオビアナアキゾウ）Kôno, J. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. XXXIII（3）：238（検索表，分布として九州と支那をあげる）

1934　*Hylobius okinawanus*（オキナワアナアキゾウ）Kôno, J. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. XXXIII（3）：237（沖縄でクスノキを加害，記載に使用した模式標本は *orientalis* の若い成虫にすぎない，ここで新しくシノニムとして整理する）—**Syn. nov.**

1937　*Hylobius orientalis*（シロオビアナアキゾウ）河野・金，朝鮮博物学会雑誌 22：21（分布として支那，朝鮮，九州をあげているが，朝鮮の記録は 1926 年の河野の引用であろう）

1937　*Hylobius desbrochersi*（トゲアナアキゾウ，*H. okinawanus*（オキナワアナアキゾウ），*H. perforatus*（クスアナアキゾウ）渡辺，日本樹木害虫総目録：26（河野の 1934 年の論文の誤りをそのまま引用しているようである）

1943　*Hylobius perforatus*（クスアナアキゾウ）松下，森林害虫学：288～290（日高よりの引用）

1953　*Hylobius perforatus*（クスアナアキゾウ）井上，林業害虫防除論，中巻：130～133（日高よりの引用。形態，習性および防除法を記述，成虫の図は本種でないらしい）

1956　*Hylobius orientalis*（シロオビアナアキゾウ）市橋，新昆虫 9（3）：47（三重県から記録，越冬中の成虫をスギの根から採集，成虫の写真あり）

以上の要約

学名：*perforatus* の原記載の♀とされたものが *orientalis* であつたために混乱が生じた。*macilentus* はジャワと印度に分布し日本に産しない。学名は *orientalis* が有効名で，台湾には別亜種 *formosanus* Zumpt を産する。

分布：本州（三重県が記録上の北限），九州，沖縄，支那，台湾（別亜種）。

加害植物：クス，シロダモ，カゴノキ，ヤブニツケイ，タブノキ（いずれもクス科）。

生態と防除法：日高，松下または井上を参照されたい，防除法はオリーブアナアキゾウについての松沢らの論文も参照されたい。

2. ***Hylobius perforatus*** Roelofs　ガロアアナアキゾウ

1873　*Hylobius perforatus* Roelofs, Ann. Scc. ent. Belg. XVI：188（♂の記載をこの種のものとする，♀として同時に記載されたのは *orientalis* である）

1878　*Curculio perforatus* Harold, Deut. ent. Zschr. XXII：84（長崎から記録）

1931　*Hylobius perforatus*（アナアキオホザウ）松村，日本昆虫大図鑑：285，f. 937（同定は正しいであろう。"ニレ，ヤナギの樹幹からにじみでる液汁を吸収する"）

1932　*Hylobius perforatus*（アナアキオホザウ）湯浅，日本昆虫図鑑：541，f. 1055（図と記載に要点を欠くが，正しく同定されているものと推定する。"夏期ヤナギ等の樹液に来集する"）

1932　*Hylobius perforatus* Dalla Torre et Schenkling, Junk Col. Cat. 122：17（日本を分布地として目録にあげる）

1934　*Hylobius galloisi*（ガロアアナアキゾウ）Kôno, J. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. XXXIII（3）：235（北海道から記載）—**Syn. nov.**

1950 *Hylobius galloisi*（ガロアアナアキゾウ）河野，日本昆虫図鑑：1265，f. 3647（分布は北海道，本州。加害植物はヤチダモ・アオダモ類）

1959 *Hylobius perforatus*（クスアナアキゾウ）三宅，北九州の昆虫 6 (3)：60（シオジの生木樹幹に発見される）

以上の要約

学名：本種と *orientalis* が同一種の ♂♀ として記載されたため以後の混乱が生じた。河野が 1934 年の論文で *perforatus* と同定したのは，おそらく *cribripennis* であろう。*H. galloisi* は体がややずんぐりしていることと脛節端刺毛の色が黒色を帯びることで，西南日本産の *perforatus* から区別できるが，その他の点には差がなく，♂交尾器も全く同じである。将来十分に調査が進めば亜種として残すことができるかもしれない。

分布：北海道，本州，九州。

加害植物：シオジ，トネリコ（アオダモ），ヤチダモ（いずれもヒイラギ科）。

生態：成虫がニレ，ヤナギなどの樹液に集まること以外は不明である。

3. ***Hylobius cribripennis*** MATSUMURA et KÔNO オリーブアナアキゾウ，トゲアナアキゾウ，オジロアナアキゾウ

1891 *Aclees Roelofsi* DESBROCHERS, Ann. Soc. ent. Belg. XXXV, C. R：cccli（日本から記載）

1892 *Pagiophloeus Roelofsi* FAUST, Stett. ent. Ztg. LIII：50（属を移す）

1912 オレーフゾウムシ，香川農試，官報明治 45 年，p. 467（生態）

1914 *Hylobius macilentus*（オレーフゾウムシ）香川農試，官報大正 3 年，p. 316（生態）

1928 *Dyscerus cribripennis*（オジロアナアキゾウ）MATSUMURA et KÔNO, Ins. Mats. II：168（八丈島産 1♂ に基づいて記載）

1931 *Hylobius perforatus*（アナアキオホザウムシ）横山，続日本の甲虫：61，pl. 8，f. 9（図示してあるのは本種であろう）

1932 *Pagiophloeus cribripennis* DALLA TORRE et SCHENKLING, Junk Col. Cat. 122：21（日本を分布地として目録にあげる）

1932 *Hylobius desbrochersi* ZUMPT, Kol. Rdsch. 18：130（*H. roelofsi* は HAROLDにより先取されているので新名を与え，*perforatus* との区別点を記してある）

1933 *Hylobius perforatus*（アナアキオホザウムシ）神谷・安立，原色甲虫図譜 pl. 43，f. 8（図から本種と推定）

1933 *Hylobius perforatus*（アナアキオホザウムシ）加藤，分類原色日本昆虫図鑑 9，pl. 24，f. 7（図から本種と推定）

1934 *Hylobius desbrochersi*（トゲアナアキゾウ），*H. perforatus*（クスアナアキゾウ），KÔNO, J. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. XXXIII (3)：239（河野の標本を調べた結果，同一種を 2 種として扱つていたことが明らかとなつた）

1934 *Hylobius cribripennis*（オジロアナアキゾウ）KÔNO, J. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. XXXIII (3)：239（八丈島）

1935 *Hylobius cribripennis*（オジロアナアキゾウ）神谷・山本，昆虫 IX (5)：229（河野の記録を引

用）

1937　*Hylobius cribripennis*（オジロアナアキゾウ）正木，昆虫 XI(1/2)：85（河野の記録を引用）

1955　*Hylobius desbrochersi*（トゲアナアキゾウ）伊賀，原色日本昆虫図鑑（上），増補改訂版：220，pl. 68（図説）

1956　*Hylobius desbrochersi*（オリーブアナアキゾウ）中条・森本，森林防疫ニュース 5（10）：6～8（形態，防除法）

1957　*Hylobius desbrochersi*（オリーブアナアキゾウ）松沢・川原，森林防疫ニュース 6（5）：9～11（経過習性）

1957　58　*Hylobius desbrochersi*（オリーブアナアキゾウムシ）松沢・宮本・岡本・川原，香川大学農学部学術報告 8（2）：172～188，1957；9（3）：129～135，1958（生態，防除法）

1958　*Hylobius desbrochersi*（オリーブゾウムシ）松沢・川原，農薬 5（4）：55～58（生態と防除法）

1958　*Hylobius desbrochersi*（オリーブアナアキゾウ）松沢，農業香川 10：43～45，46～48（生態と防除法）

以上の要約

学名：八丈島から河野が記載した *cribripennis* が有効名として残り，*desbrochersi* はそのシノニムである。本種は個体変異が著しく，少数の個体で研究をした河野はこれを3種に分けている。

分布：本州，小豆島，四国，九州，八丈島，台湾。

加害植物：オリーブ，イボタノキ，ネズミモチ。

生態と防除法：松沢らの研究に詳しいのでこれらを参照されたい。

III　3種の区別点

Hylobius 属のこの3種は同属の他の種と，（1）翅鞘後方 1/3 が白鱗におおわれ，（2）第5間室の翅端近くに瘤状突起があり，（3）翅端は別々に尖っていることなどにより区別できる。

これら3種は各々個体変異が著しく，特に翅鞘の点刻は Plate 1. A，B に示したように，浅いものから深いものまで，いろいろの程度のものがみられる。

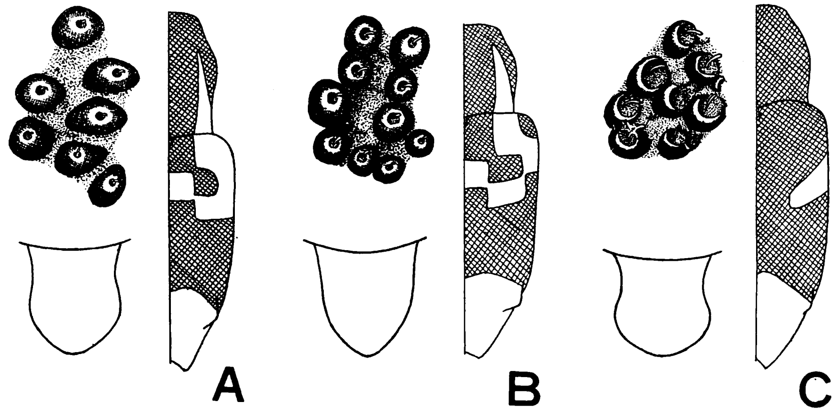
3種の検索表

1：前胸背の顆粒はおのおのの内前部が幅広くくぼみ，前胸は皺状を呈するようにみえる。翅鞘は肩部のやや後方から，内後方に向かう短い白帯がある。翅鞘第5間室の瘤状突起は弱い。小楯板は先端まるく，基部近くでくびれる。♂交尾器は背面と腹面が膜状で，両側縁は平行，開口付近で幅狭くなり，先端はまるい。体長 14～16*mm*（吻を含まない）。分布：本州，四国（新記録），九州，琉球，支那，台湾（別亜種）。加害植物：クス，シロダモ，カゴノキ，ヤブニツケイ，タブノキ，シキミ（新記録）。

Hylobius orientalis Motschulsky クスアナアキゾウ

1′：前胸背の顆粒はおのおのその上端が点刻され，顆粒は互いに独立している。翅鞘は肩の部分から縫合線に達する紋がある……………………………………………………………………（2）

2：体はやや細長く，翅鞘第5間室の瘤状突起もやや著しい。吻は中央隆起線を欠く。小楯板は基部近くで弱くくびれる。♂交尾器は強く骨化し，背面開口部付近の細長い部分と腹面の半月状部のみ膜状，



Text fig. 1 前胸背の顆粒，小楯板および白紋模式図（右半分）〔Granules on pronotum, scutellum and schema of maculation〕
A : *Hylobius cribripennis*, B : *H. perforatus*, C : *H. orientalis*

両縁は開口部に向かつて狭まり，その部分から先はふたたび幅広くなり，先端は截断される，側面中央部付近に浅い溝が走る。体長 12～15 *mm*（吻を含まない）。分布：本州，小豆島，四国，九州，八丈島，台湾。加害樹：オリーブ，イボタノキ，ネズミモチ。

Hylobius cribripennis Matsumura et Kôno オリーブアナアキゾウ

2′：体は前種よりややずんぐりし，北海道産のものではその傾向が著しい。吻には不明りようながら中央隆起線がある。小楯板はくびれず，先端は尖る。♂交尾器は背面のみ膜状，側縁は丸味を帯び，開口部に向かつて狭まり，先端はまるい。体長 13～15 *mm*。分布：北海道，本州，四国，九州，加害樹：シオジ，トネリコ，ヤチダモ。

Hylobius perforatus Roelofs ガロアアナアキゾウ

IV 要　　約

1．この論文でアナアキゾウ属 *Hylobius* の3種について今までの記録の整理の結果とその区別点とを示した。

2．クスアナアキゾウの学名は *Hylobius orientalis* Motschulsky で，*H. okinawanus* Kôno は異名である。

3．オリーブアナアキゾウの学名は *Hylobius cribripennis* Matsumura et Kôno で *H. desbrochersi* Zumpt は異名である。

4．ガロアアナアキゾウの学名は *Hylobius perforatus* Roelofs で *H. galloisi* Kôno はこれの北海道型に与えられた名である。

文　　献

1）中条道夫・森本　桂：オリーブゾウムシについて，森林防疫ニュース，5，10，(1956) pp. 6～8
2）日高義実：クスゾウムシ駆除予防試験，林試彙報，5，(1921) pp. 17～28
3）日高義実：管内に於ける造林試験及び調査概要，(1932) pp. 141～162
4）市橋　甫：三重県のゾウムシ2種，新昆虫 9，3，(1956) p. 47

5)　伊賀正汎：ゾウムシ科，原色日本昆虫図鑑，上，増補改訂版（保育社）(1955)

6)　井上元則：林業害虫防除論，中巻，(1953)

7)　香川農試：オレーフ樹栽培成績，官報明治 45 年 3 月 20 日，(1912) p. 467

8)　香川農試：オレーフ樹試験成績，官報大正 3 年 10 月 15 日，(1914) p. 316

9)　神谷一男・安立綱光：原色甲虫図譜，(1933)

10)　神谷一男・山本　玄：八丈島産甲虫目録，昆虫 9，5，(1935) pp. 228～231

11)　加藤正世：分類原色日本昆虫図鑑，9，(1933)

12)　河野広道：朝鮮産未記録甲虫並に *Rhynchites* 属の一新種の記載，台湾博物学会会報 XVI，(1926) pp. 87～91

13)　河野広道：ゾウムシ科，日本昆虫図鑑（北隆館）(1950)

14)　河野広道・金　憲奎：朝鮮産象鼻虫科，昆虫，朝鮮博物学会会誌 22：(1937) pp. 9～31

15)　正木十二郎：豆南諸島に於ける昆虫相に就いて，昆虫 11，1，2 (1937) pp. 80～93

16)　松村松年：日本千虫図解，4，(1907)

17)　松村松年：大日本害虫全書後編 (1915)

18)　松村松年：日本昆虫大図鑑（刀江書院）(1931)

19)　松下真幸：森林害虫学 (1943)

20)　松沢　寛：オリーブアナアキゾウムシ防除の研究，農業香川，10，(1958)pp. 43～45，pp. 46～48

21)　松沢　寛・川原幸夫：オリーブアナアキゾウムシの経過習性，森林防疫ニュース，6，5，(1957) pp. 9～11

22)　松沢　寛・川原幸夫：オリーブゾウムシの習性被害と薬剤防除，農薬，5，4，(1958) pp. 55～58

23)　松沢　寛・宮本裕三・岡本秀俊・川原幸夫：オリーブアナアキゾウムシの防除に関する研究，I，II，香川大学農学部学術報告，8，2，(1957) pp. 172～188；同 III，9 3，(1958) pp. 129～135

24)　三宅義一：奥八女熊渡山周辺の昆虫相 (1)，北九州の昆虫，6，3，(1959) pp. 60～74

25)　渡辺福寿：日本樹木害虫総目録 (1937)

26)　横山桐郎：続日本の甲虫 (1931)

27)　湯浅啓温：ゾウムシ科，日本昆虫図鑑（北隆館，旧版）(1932)

28)　Dalla Torre, K. W. von & Schenkling, S.: Coleopterorum Catalogus auspiciis et auxilio W. Junk, pars 122 Hylobiinae, (1932) 112 pp.

29)　Desbroches des Loges, M. J.: Curculionides et Brenthides du Bengale occidental recueillis par R. P. Cardon avec description d'espèces nouvelles. Ann. Soc. ent. Belg. XXXV; C. R.: cccl-ccclxi, (1891)

30)　Faust, J.: Curculioniden aus malayishen Archipel. Stett. ent. Ztg. LIII, (1892) pp. 184～227

31)　Harold, E.: Beitrag zur Käferfauna von Japan. Deut. ent. Zschr. XXII: (1878) pp. 83～86

32)　Kôno, H.: Einige Curculioniden Japans. Ins. Mats. II, (1928) pp. 163～177

33)　Kôno, H.: Die Hylobiinen aus Formosa. Ins. Mats. VII, (1933) pp. 182～189

34)　Kôno, H.: Die japanishen Hylobiinen. J. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. XXXIII (3) (1934) pp. 223～248

35)　Motschulsky, V.: Catalogue des Insectes reçus du Japon. Bull Soc. Imp. Nat. Moscou 39, (1866) pp. 163～200

36)　Roelofs, W.: Curculionides recueillis au Japon par M. G. Lewis (1er partie). Ann. Soc. ent. Belg. XVI, (1873) pp. 154～192

37)　Zumpt, F.: Neue Rüsselkäfer aus dem japanischen Reich und Bemerkungen zu einigen *Hylobius*-(*Pagiophloeus*-) Arten. Kol. Rdsch., 18, (1932) pp. 126～135

図版説明 (Explanation of plates)

Plate 1.

A, B：オリーブアナアキゾウ *Hylobius cribripennis* MATSUMURA et KÔNO

C：ガロアアナアキゾウ *Hylobius perforatus* ROELOFS

D：クスアナアキゾウ *Hylobius orientalis* MOTSCHULSKY

Plate 2.

雄交尾器 A～E：先端背面図 (apex of penis, dorsal aspect), F～J：側面図 (penis, lateral aspect).

A, F：オリーブアナアキゾウ *Hylobius cribripennis* MATSUMURA et KÔNO

B, G：クスアナアキゾウ *Hylobius orientalis* MOTSCHULSKY

C～E, H～J：ガロアアナアキゾウ *Hylobius perforatus* ROELOFS

(C, H：札幌郊外藻岩山産；D, I：静岡県水窪産；E, J：福岡県犬ケ岳産)

Taxonomic Revision of Weevils Injurious to Forestry in Japan.

II. *Hylobius orientalis* and its allied species.

Katsura MORIMOTO

(Résumé)

The three following species of the genus *Hylobius* have frequently been misidentified or confused by some Japanese entomologists and the result of my revision on the group is given in this paper.

1. *Hylobius orientalis* MOTSCHULSKY

Heilipus orientalis MOTSCHULSKY, Bull. Soc. Nat. Moscou XXXIX：180, 1866.

Pagiophloeus orientalis DALLA TORRE et SCHENKLING, Junk Col. Cat. 122：22, 1932.

Hylobius orientalis ZUMPT, Kol. Rdsch. 18：130, 1932.－KÔNO, J. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. XXXIII：238, 1934.

Hylobius perforatus ROELOFS (partim), Ann. Soc. ent. Belg. XVI：188, 1873.－MATSUSHITA, Shinrin Gaichu Gaku：288, 1943.－INOUYE, Ringyo Gaichu Bojoron II：130, 1953.

Hylobius macilentus HITAKA (nec BOHEMAN), Bull. Forest Exp. Sta. Japan 5：17, 1921.

Hylobius okinawanus KÔNO, J. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. XXXIII：237, 1934.－**syn. nov.**

Note：Type specimen of *H. okinawanus* is nothing but an immature adult of *orientalis*.

2. *Hylobius perforatus* ROELOFS

Hylobius perforatus ROELOFS, Ann. Soc. ent. Belg. XVI：188, 1873.－MATSUMURA, 6000 Ill. Ins. Japan：285, f. 937, 1931.－YUASA, Icon. Ins. Japan：541, f. 1055, 1932.－DALLA TORRE et SCHENKLING, Junk Col. Cat. 122：17, 1932.

Curculio perforatus HAROLD, Deut. ent. Ztg. XXII：84, 1878.

Hylobius galloisi KÔNO, J. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. XXII：235, 1934.－KÔNO, Icon. Ins. Japan：1265, f. 3647, 1950.－**syn. nov.**

Note：*H. galloisi* may be a northern form of *perforatus*.

3. *Hylobius cribripennis* MATSUMURA et KÔNO

Dyscerus cribripennis MATSUMURA et KÔNO, Ins. Mats. II：168, t. VI, f. 18, 1928.

Pagiophloeus cribripennis DALLA TORRE et SCHENKLING, Junk Col. Cat. 122：21, 1932.

Hylobius cribripennis Kôno, J. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. XXXIII : 239, 1934.

Aclees Roelofsi Desbrochers, Ann, Soc. ent. Belg. XXXV, C. R. : cccli, 1891.

Pagiophloeus Roelofsi Faust, Stett. ent. Ztg. LIII : 50, 1892.

Hylobius desbrochersi Zumpt, Kol. Rdsch. 18 : 130, 1932. - Kôno, J. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. XXXIII : 239, 1934. - Matsuzawa et al, Sci. Bull. Kagawa Coll. Agr. 8 : 172, 1957 ; 9 : 129, 1958. - Iga, Col. Ill. Ins. Japan, ed. 2 : 220, pl. 68, no. 1569, 1955. - **syn. nov.**

Hylobius perforatus Yokoyama (nec Roelofs), Zoku Nippon no Kônchu : 61, pl. 8, f. 9, 1931. - Kato, Nat. Col. Ill. Ins. Japan 9 : pl. 24, f. 7, 1933. - Kamiya & Adachi, Col. Ill. Coleopt. Japan : pl. 43, f. 8, 1933. - Kôno, J. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. XXXIII : 239, 1934.

Key to mentioned species of the genus *Hylobius* Mermar.

1 : Pronotum wrinkled granulate ; elytron with a short oblique scaly band behind shoulder; scutellum rounded at the apex, weakly constricted near the base ; penis membranous on the dorsal and ventral surfaces, parallel-sided, narrowed near ostium, the apex rounded. Length: 14〜16 *mm*. Distribution : Honshu, Shikoku, Ryukyu, China. Attacked plants: *Actinodaphne lancifolia, Litsea glauca, Machilus thunbergii, Cinnamomum camphora, Cinnamomum japonicum, Illicium religiosum.*

Hylobius orientalis Motschulsky

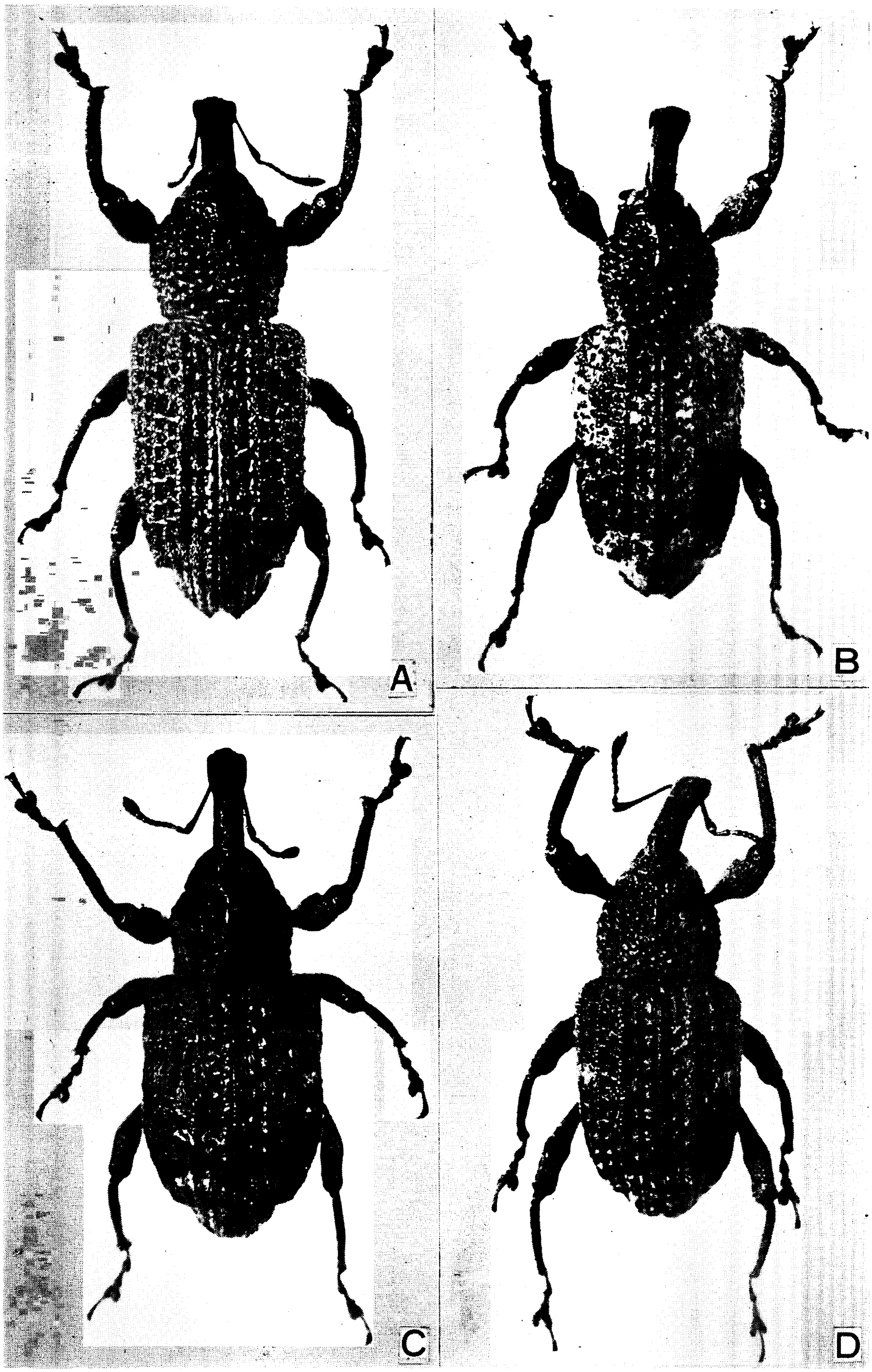
1′ : Pronotum strongly granulate, each granule separated from each other ; elytron bearing a large scaly marking on the base ……………………………………(2)

2 : Body slenderer ; elytron adorned with tubercle on the 5th interval at the declivity ; rostrum with the median keel absent; scutellum constricted near the base ; penis strongly sclerotized, a narrow area about ostium and a semicircular area on the ventral surface membranous, the sides narrowed towards the ostium, thence gently widening terminally, truncate at the apex, with two shallow sulci on each side. Length: 12〜15 *mm*. Distribution: Honshu, Shôdo-shima, Shikoku, Kyushu, Hachijô-shima, Formosa. Attacked plants: *Olea europea, Ligustrum ibota, L. japonicum.*

Hylobius cribripennis Matsumura et Kôno

2′ : Body robuster, especially in the specimens from Hokkaido; elytron with tubercle on the declivity of 5th interval a little weaker ; rostrum bearing an indistinct median longitudinal keel ; scutellum not constricted, pointed at tip ; penis membranous on the dorsal surface, the sides rounded and narrowed towards the ostium, the apex rounded. Length: 13〜15 *mm*. Distribution: Hokkaido, Honshu, Shikoku, Kyushu, Attacked plants: *Fraxinus sieboldiana, Fraxinus mandshurica, Fraxinus verecunda.*

Hylobius perforatus Roelofs


A
B
C
D

—Plate 2—